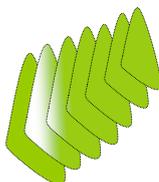


「草刈り機」取り扱い講習

平成22年6月2日



正しい機器の取扱を身につける。
受講生は真剣だ

締め付けトルクのかけ方の極秘!を聞く。



知ってる人はいい気持ち!知らない人だけ損をする!



チョーク「開」、ヘソをポコポコ押す。

～草刈り機取り扱い講習内容～

初夏は萌える新緑、エンジン音が山々にこだます。

○ループハンドル ○ツノガタハンドル ○歯のはずし方 ○回転方向は時計と逆まわり ○歯の表裏
○締め付けトルク ○ハンドル位置 ○ヒモの位置は腰 ○キックバックに注意 ○本体は右腰位置にする
○燃料は満タンで1時間ほどもつ ○エンジンのかけ方 ○ツーサイクルエンジン(ツーサイクルエンジン+ガソリン)等々。知っているようで知らないことばかり、約30分の講習後、免許皆伝だ。5台の草刈り機音が高山の山々にこだます。今回の講習は機器への安全管理、事故回避のための講習会であり、会員必修講習でもある(この講習を受講しないと草刈り機の使用はできません)。…何やら得したような講習会でした。



3月に刈ったのに…もうこんなに、雑草には負けないゾ



雑草は光合成を受け成長が早い、さあ雑草と競争だ!



棚田の景観を保つ作業はつづく。



真っ直ぐに上る煙。空の青と棚田の煙はよく似合う。



健康であることは素晴らしいね。



次は冷たいソーメンでも食べましょう…(賛成)

あとは「習うより慣れる」だ。チーム一丸で攻めたのが良かったのか、アッと言う間に四枚の棚田を刈り上げた。同時に野焼きの煙が真っ直ぐに立ち上る。棚田の景観は循環しだしたようだ。刈る面積は約四反弱、半端ではないゾ。雑草も大自然からの贈り物と思えば…苦にならない。年7回ほど刈り込まないと景観は維持できない。棚田の利用法としては草刈り機の体験・実習場等としても使えるね。

これからは帽子のつばから汗が滴り落ちる時期を迎えます。無理をしないで、土と雑草と付き合いを楽しんでいかないと、身体が悲鳴を上げてしまいます。